



# 稲穂

豊崎小学校 校長室通信

令和4年11月29日

第9号 文責 久保 亨

## 『5つの誓い』を生きる

実りの秋となる11月でしたが、またしても新型コロナウイルスの影響を受け、参観日・バザー中止という事態になってしまいました。保護者の皆様、地域の皆様には、ご心配・ご迷惑をおかけすることとなり、大変申し訳ありませんでした。ご理解・ご協力に感謝申し上げます。

ある程度、想定していたこととはいえ、やはり行事の中止というのは気持ちが下がってしまいますし、コロナ対応のため、いつも以上に日常生活に制限がかかり、ストレスもたまります。学校では、様々な感染症対策を講じたり、行事や活動の計画を変更したり、欠席せざるを得ない児童に対してリモートで授業をしたりしていますが、そうしたコロナ対応に伴う教員の負担も相当なものと言わざるを得ません。

そんな苦しい状況ではありましたが、下を向かず、前向きに頑張っている豊崎小学校の児童・教職員です。保護者の皆様のご協力により、12月の参観日には、バザーのために準備していたものを生かした楽しい会を催すことになりました。「チーム豊崎」でこのコロナ禍を乗り切っていきましょう！

さて、先日、元中学校教員で事故のため四肢麻痺となりながらも、奇跡の復活を遂げられた 腰塚 勇人 氏の講演を聞く機会がありました。

「命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～」という演題で、「自分の命は自分だけのものではない」「一人でなんか一日たりとも生きていない」というメッセージを熱く語られていました。そのお話の中で、腰塚氏が心掛けていた『5つの誓い』を紹介してくださいました。それは、以下のようなものです。

口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう

目は、人のよいところを見るために使おう

耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう

手足は、人を助けるために使おう

心は、人の痛みがわかるために使おう



私たちは、誰もがドリー夢メーカーに支えられており、誰もが誰かのドリー夢メーカーでもあります。世の中のみんながこの『5つの誓い』を実践し、共生社会を築いていければ、と強く感じました。

